

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2970200388		
法人名	有限会社 サン企画コーポレーション		
事業所名	グループホームゆかりの里苑		
所在地	大和高田市松塚850-3		
自己評価作成日	令和2年7月7日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index_php?action_kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=2970200388-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type">/www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index_php?action_kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=2970200388-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和2年7月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

無農薬のお野菜を育てています。献立にそのお野菜を使っています。入居者様には食事の楽しみやおやつ等食していただいた時、笑顔に繋がるよう心がけての調理をしています。施設ではラッキョや梅干、吊るし柿、干し大根などつくります。イチゴや梨のコンポート、巨砲でシャムを作り、寒天でおやつ用のゼリーを作ります。介護ではNHKのDVDを取り寄せ、回想法を行っています。そして大人の学校(学習療法)にも努めています。コロナ関係で外出の機会が少なくなったので、レクリエーションに力を入れ、少しでも楽しい時間を過ごして頂けるよう職員一同頑張っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、鉄骨造り2階建ての2ユニットのホームで、最寄りの駅からは徒歩5分と訪ねやすい場所にある。また昔ながらの古民家が連なる環濠集落の中にあり、交通量も少なく利用者がゆったりと寛げる静かな環境にある。生活介護に加えて認知症の予防改善のため、積極的に学習療法を取り入れて脳の活性化に努めている。食事には、特に力を入れており、3度の食事はすべて職員の手作りで、自家農園で栽培した新鮮な野菜をふんだんにとり入れた食事を提供している。職員は、利用者の思いを押し量って一人ひとりが重度化しても生きがいを感じて過ごせるよう日々支援に努めている。地域活動や行事にも積極的に参加し地域に溶け込んでおり、介護など身近な相談の場として地域の認知症ケアの拠点となることが期待できる事業所である。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念が玄関入り口と、ロッカー室にも掲示されている。 勤務に就く時も、目を通してもらい共有してもらっている。	その人らしく最後まで暮らせる第二の住い(家)であることを基本に、家庭的な環境と地域住民との交流の下での自立した生活を送るとの理念を玄関とロッカー室に掲示し日々確認している。毎月の職員ミーティングでも理念に沿った支援ができていのかを話し合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	松塚町の自治会に加入しており、地域の祭りごとにも参加させていただいている。お野菜等もいただくことがある。	自治会に加入し、日々地域の方との交流があり、秋祭りには事業所の前庭を神輿の休憩所に提供し、利用者も一緒に祭りを楽しんでいる。小学2年生が授業の一環として地域を調べてみようと事業所を訪問し利用者と交流している。傾聴ボランティアをはじめ民謡、三味線演奏などのボランティアの定期的な訪問がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大和高田市第2層生活支援体制整備協議会にゆかりの里苑として参加している。 地域包括支援課と地域の社会資源マップ作成などに取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	松塚町の総代さんはじめ自治会の役員さんや町民代表の方々、行政の介護保険課、地域包括支援課も参加いただき色々ご指導やご意見等頂いている。	運営推進会議は地域の総代、副総代、老人会会長、民生委員、市担当職員・地域包括支援センター職員の参加を得て偶数月の第4水曜日の午前中に開催している。会議は施設の近況報告や意見交換、地域の相談ごとや行政への要望などを発信する場ともなっている。	利用者の家族や後見人、地域の薬剤師など多職種からの参加を要請し、参加してもらうことにより、これまでに培ってきた認知症ケアや身体拘束などのノウハウを地域の多様なニーズに応える社会資源としての拠点となることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ラン伴、生活支援サポーターなどゆかりの里苑として行政の取り組みに参加させていただき、尚運営推進会議では行政として参加いただいている。	運営推進会議には、毎回市担当職員・地域包括支援センター職員が出席しスムーズな情報交換が出来る。生活保護者も複数名受入れており担当課とは日頃から連携をとり、何でも相談しあえる関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的で開催しており、ミーティングでも話しあっている。	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開催している。身体拘束についての指針を作成し、職員研修も行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害を認識し、身体拘束をしないケアを日々実践している。玄関は施錠していない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会にも職員が参加しており、施設での研修会には参加した職員が研修の報告をし、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内でも利用されておられる方が居ます。新たに利用される方が居られ、手続き等の支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずご本人様に面会をし、ご家族様のお困りな事やご意向に沿うよう話をさせて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族さまの意見等は管理者始め職員とも共有し施設以外の外部には意見の反映のできる事を伝えている。	利用開始前に、自宅や生活の本拠地を訪問し、本人と家族の要望を確認している。又家族の意見や要望は、書面では真意が正しく伝わらないことがあるので家族の来訪時には必ず聴くようにし、毎月の報告書に利用者の日々の写真を同封し、日々の生活の様子を伝えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人的に聞かせてもらうことがありまた、ミーティングの時にも意見を聞くようにしている。	月に一回ミーティングを開き、管理者は職員一人ひとりに意見や要望を聴いている。職員の意見には耳を傾け、提案は必ず取り入れて運営に反映させている。日々の気づきは送りノートに記入して職員間で共有している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いや、仕事に関する希望等聞かせて頂き、それを取り入れていくようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政等の研修に参加するのに、参加費や給料など、なお交通費も出している。研修に参加していただけるよう配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の管理者、リーダーさんが集まり、それぞれの取り組みや困っていることなどをテーマとして話し合っていたりしている。食事をしながらの交流をかねた検討会です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、趣味や生活歴など聞かせて頂き、また介護では言葉や笑顔、会話の受け答え等を重視し、信頼関係を築くように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望もしっかり聞かせていただいています。信頼いただけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際に色々聞かせて頂き、施設以外の利用も視野にいれ対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場としてご本人様の出来る事は、ご協力いただいている。お互いさんの関係を大事にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所の際にはご家族様のお力もお借りして、施設と共にご本人様を支えて頂ける様お願いをしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方やお友達等、お見いただいたときは、その方のお客様としてお茶を出したり、時にはおやつのお時間帯では、一緒におやつを召し上げて頂いている。	利用開始時に本人と家族から聞き取った情報と日々の会話の中で一人ひとりの生活習慣の把握に努めている。友人や以前住んでいた近所の方の来訪には失礼のない対応を心掛けている。行きつけの美容室、馴染みのお店へ家族といかれる利用者、携帯電話を利用されている方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方や、そうでない方など職員は全員ハークしています。孤立しないよう声掛けや見守りで、関係作りに努めています。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもオムツをお持ちしたり、洗濯の支援など、その方や、ご家族様の状況に合った対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様にとって何がいいのか、職員の意見を聞きながら希望に沿った対応をしている。	学習療法で利用者と一対一である会話内容や傾聴ボランティアの方からの助言と併せて利用者の思いや意向を把握するようにしている。また、発語が困難な利用者に対しては行動・表情から思いや意向をくみ取るよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、面接や聞き取りをさせて頂き、暮らしのハークに努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまで過ごされてきた環境や健康面、そして心理的な面の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お一人お一人の毎日の過ごされている様子や、食事面健康面、そして課題等皆と話し合い介護計画に活かしている。	業務日報やミーティング記録、送りノートの記録から管理者と担当職員2名が利用者本位の笑顔のある暮らしを目標とした介護計画を作成し、家族の確認を得ている。介護計画は6ヶ月ごとに見直しを行い、必要に応じて変更を行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報には日々の様子、食事量、排泄、水分補給、バイタル等記録している。少しでも変わったことが有れば赤ペンにて記載し誰でも直ぐに分かるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に沿った対応をしている。施設内だけでなく社会資源の利用もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のボランティアの方々や市民団体の方々のお力をお借りしています。楽しい時間を過ごして頂いています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの通院を希望される方には受信出来る様、支援しています。受診のために同行や乗降の支援をしている。	事業所の協力内科医が第1と第3木曜日に訪問診療を行い、薬剤師と看護師が同行し減薬等の相談もしている。また利用者全員が協力医を主治医としており随時の往診も受けられる。第2と第4金曜日は、歯科医師の訪問診療がある。精神科や皮膚科等の専門医へは職員が通院介助をしており、医療面の不安は少ない。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携をしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず情報提供をし、入院中は退院に向けての話し合いを持ちます。病院の皆様方にお世話になっています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け、家族様や病院、そして施設と話し合いを行います。ご家族様のご希望に沿いながら、今後の支援についてお話をさせていただきます。	利用開始時に看取の方針を利用者と家族に説明し希望を聴いている。本人が重度化した時は本人と家族に協力医が改めて説明を行い、看取りについて書面を作成し、協力医と看護師が24時間の看取りの体制をとり対応している。複数名の看取り介護を行っているが、ターミナル支援について職員への研修は行われていない。	利用者の高齢化が進んでおり、施設での看取りを希望する家族が増えているのが現状であり、今後は施設での看取り介護が益々求められる傾向にある。看取り介護についての技術面及び精神面など職員への研修の取り組みが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は話し合いや、事例を交えて取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会の役員様にもご協力頂ける様になっている。	利用者も参加して避難訓練を年に2回行っている。防災マニュアルを作成し、緊急時の職員ホットラインも整備できている。運営推進会議で非常時に地域住民の協力を要請し話し合いができており、また事業所を災害時の避難場所としての提供を申し出るなど、相互の協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を損なうことの無いよう常に心がけています。	事業所は利用者の家であり、職員は利用者がその人らしく暮らせるよう信頼関係を築き、利用者本人の自己決定を本位に努め、排泄支援でも無理強いをしない自然な支援を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定することなく聞き入れるようにしています。少し時間が立てば忘れてしまわれることが多い。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせた介護を心がけています。体調や、気分等に合わせます。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の出来る方に合わせ、出来ない方にはこちらで選んで、いいかどうかの確認を取り支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や、食後の食器洗い、洗った後の食器拭き等色々お手伝いして頂いております。	3度の食事は、代表者の自家農園で収穫した新鮮野菜とその時々の手持ち食材で利用者と一緒に相談してメニューを決め、下ごしらえは利用者も手伝い、色々アレンジした料理を提供しており、利用者の食欲も旺盛で好評を得ている。職員も利用者と同じものを一緒に食べ食事を楽しんでいる。お弁当の日やサンドウィッチの日を設けたり、誕生日の手作りケーキなど食事を楽しむ支援を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、食事の形態もその方用にあうよう配慮しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指示を頂きながら、その方に合った口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムをハークし、オムツの使用量が少なくなるよう、濡れていない時の気持ちの良い状態を分かち合おうと努めています。	おむつをしない支援に取組み、利用者一人ひとりの排泄記録を日報に記入し、排泄パターンの把握に努め無理のない自然な排泄ができるよう適宜なトイレ誘導と水分補給に心がけている。夜間2名の方がポータブルトイレを使用し、無理なく排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や、食事の形態などに配慮している。身体を動かすようにラジオ体操第一第二を毎日全員でしている。ラジオ体操は皆さんよく覚えておられます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お尻が汚れている時は入浴して頂いたり、散髪時は入浴など、その時の状況にも合わせている。	週2回午後入浴を基本とし、利用者の希望や体調に配慮し入浴を楽しめるよう支援している。菖蒲やゆずを浮かべ季節を楽しむこともあり、入浴剤を入れたお湯も利用者に好評を得ている。入浴を拒否する利用者には時間をかけて入浴を促すような声かけの工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方や、休憩にベットへ行かれたり、お部屋の照明もその都度調整します。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員ハークしています。その方の症状を医師に報告し、出来る限りお薬を減らすことが出来るか相談させていただいている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや、食事の後片付け、洗濯物などの方が得意とされることをお手伝いして頂き、歌の好きな方には、皆さんと一緒に歌っていただくようにしています。笑顔につながります。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時、花見の時は毎日のように出かけます。丘陵公園にも行きます。ご家族様とお出かけの方もおられます。	天気の良い日は敷地内の玄関先でお茶や外気浴を楽しみ、桜の季節は事業所近くを散歩して日々外気に触れる機会を作っている。季節ごとの花を見に馬見丘陵公園にも出かけている。(今年はコロナ禍の影響で外出は自粛している)	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様がされています。そうでない方は後見人の方がされている。ご自分で所持されている方は居られません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	おはがきを書いてくださる方、年賀状を出される方などおられます。職員がお手伝いする時もあります。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の作品が壁に貼ってあったり、季節のあった生け花など、採光や温度の調節もでき居心地の良いような工夫をしています。	食堂ホールには、各利用者の席があり食事以外にみんなと話をしたり寛ぎの場にもなっている。一人になりたいときは少し離れたところにソファが設けられており、利用者は自由にくつろいでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールより少し離れた場所にソファが置かれている。気の合った者同士お話をされていたり、また一人の時間を楽しんで居られるときもある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅でご使っておられたタンスや小物類などお持ちいただいている。使い慣れたものや、見慣れたものがあり、安心して過ごして頂けるようご家族様のご協力も頂いている。	居室にはエアコン・ベッド・カーテンが備え付けられているが、好きな色のカーテン(防災ラベル付き)の持ち込みもできる。使い慣れたホーム炬燵、テレビを持ち込み、家族の写真を飾るなど自分らしく居心地よく過ごせる生活空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りの必要な方には職員の目の届きやすい居室、夜中に何度もトイレに行かれる方にはトイレの近い部屋など、その方に合わせ自立に向け安全に生活が出来る様配慮している。		